

「富山県スタートアップ・エコシステム戦略 ～戦略の広がり、次の段階へ～」

令和8年2月 富山県

1. これまでの歩みと成果

- ・2022年に策定した県成長戦略に基づくスタートアップ支援は確かな実を結びつつある。大学発ベンチャー企業数の伸び率で全国1位などと報じられたほか、T-Startupにおいても成長の加速や上場を視野に入れた動きが現れている。
- ・県内において「挑戦すること」を前向きに捉える文化が根づき始めたことは何より大きな成果である。
- ・こうした成長戦略のビジョンと施策の方向性は、富山県総合計画（2025年12月策定）へと継承された。
- ・とやまスタートアップ支援官民連携会議の開催や民間との連携、北陸スタートアップ・エコシステム・コンソーシアム（HOSTEC）の始動など新たな動きも広がりを見せている。

2. 直面する課題

- ・大都市圏と比較すると、起業家の母集団はいまだ十分とは言えず、挑戦の量的拡大が喫緊の課題である。
- ・既存のT-Startup企業への支援が重なり、新規の挑戦者がT-Startupにトライしにくい構造となっていないか検証が必要である。
- ・県や市町村、民間企業等がそれぞれ支援策を進める中、エコシステム全体としての力が分散する懸念も生じている。

3. 戦略的方向性

- ・成長戦略後の次なる展開として、総合計画を力強く推進するための戦略的な方向性を明確にする。
- ・これまでの成果と課題を踏まえ、「持続的な成長」と「挑戦の裾野の拡大」を両輪に据え、県全体で挑戦が生まれ続けるスタートアップ・エコシステムの形成を目指す。

そのため、以下の3つの柱のもと、取組を再構築する。

①共創型エコシステムの形成【場と構造をつくる】

- ・市町村や大学、金融機関、T-Startupサポーター等の民間企業等と連携を一層強化し、エコシステム全体の総合力を高める。
- ・既存の企業・団体との連携体制を最大限に活用し、挑戦が生まれやすい「場」と「仕組み」を整える。
- ・北陸全体でのエコシステム形成を進める。

②多層的な育成ルートの確立【人と挑戦を育てる】

- ・若者、学生、社内起業家等を対象とした起業家教育を拡充し、「新たな価値創出に挑戦する」広義の起業家精神を育む。
- ・起業を「特別なもの」から「身近な選択肢」へと転換し、小規模でも着実に成長する「裾野型起業」への支援を積極的に行う。

③エッジを研ぎ澄ます施策展開【富山ブランドを明確化】

- ・T-Startup等への大胆な支援に加え、医薬・ヘルスケア分野をはじめとする富山の強みが際立つ領域で支援の密度を高める。
- ・県外のスタートアップ、人材、資金を呼び込み、全国から注目される拠点の形成を目指す。



この戦略のもと、富山は「挑戦が日常となる地域」へ、
そして次代を担う起業家が集い、育つ場所へと進化していく